

「待っててくださいね」

中川 曙美（新潟県新潟市／72歳 女性）

貴方が亡くなって一年になります。

春夏秋冬、季節は何事も無かったかの様に私に近づき、そして例年と同じく私から離れていきました。どの季節にも、貴方との思い出が沢山あり、もう少し私に懐かしむ時間を与えて欲しかったのに……。私の涙を見たくなかったのでしょうか？ 立ち止まることなく、どの季節もスーツと通り過ぎていってしまいました。

今日、役場で住民票を手渡され、世帯主の欄に私の名前が心細そうに記されています。結婚して四十八年間、揺るぎなく、どんと記されていた貴方の名前は、何処に移されたのでしょうか？

新居地は決まりましたか？

一級建築士の貴方は、きつとまた素敵な家を設計し、私を待っていてくれるでしょうね。リビング、キッチン、寝室……。全て貴方にお任せします。図面を書いている貴方の姿が目に見えます。

おしゃべりが好きで、何かある度に「ねえ、聞いて！聞いて！」と話しかける私に、何をして手を休め、私の話を聞き、「おう、そうか。」と笑顔で返してくれたあなた。あの口ぐせ、あの一言をもう一度聞きたいな。

いくつもの病気と共存して、貴方に薬の管理までしていただいた私。検査結果の数値に一喜一憂し、結果が悪い時なんか半べそをかいていましたね。あの涙はもし死んでしまったら、貴方と別れなければならないという怖さでした。そんな私の心を見透かしていたのでしょうか？ 貴方は先にそちらに逝って、私を待っていてくれる、そんな気がします。

だから、だから、今、私は死の恐怖心はありません。

貴方が大きく手を広げた胸元へ飛び込んでいき、二人で大空を手をつないで、心地よい風に流されながら、一度も行くことのできなかつた海外旅行を空から楽しみたいと思います。

もう少しだけ待っていてくださいね。

とても楽しみです。